

■ 目次

- ・新会長就任にあたって
- ・会長退任のご挨拶
- ・第26回大会を終えて
- ・第27回大会開催に向けて
- ・2025年度総会報告
- ・理事会報告
- ・年報編集委員会報告
- ・広報委員会報告
- ・学会表彰委員会報告
- ・企画研究委員会報告
- ・選挙管理委員会報告
- ・支部活動報告
(北海道支部、東日本支部、関西支部、九州支部)
- ・事務局からのお知らせ
- ・追悼 田中宣秀先生の思い出

新会長就任にあたって インターンシップの持続的発展に向けて



日本インターンシップ学会の会長に選任されました北海道大学の亀野です。

日本インターンシップ学会は、1999年の創設以来、四半世紀の歩みを重ね、わが国のインターンシップの普及と発展に寄与して

まいりました。この営みは、歴代の会長や役員、そして実務と研究の双方から情熱を注いでこられた多くの先達のご尽力の積み重ねによるものです。私はそのご功績に深く敬意を表するとともに、新たな節目を迎える本学会の舵取りを担う責任の重さをあらためて感じております。

今日、私たちを取り巻く社会は、これまで経験したことのない速度と規模で変化しています。少子・高齢化に伴う人口減少、グローバル化と多文化共生、技術革新とDXの加速、環境・エネルギーをはじめとする地球規模の課題、そしてキャリアの不確実性の増大など、社会構造そのものが大きく変化しています。地域や産業の姿も再定義を迫られ、働く個人に求められる能力なども日々変化しています。

こうした時代において、若者のキャリア観にも顕著な変化が見られます。自らの生き方や価値を丁寧に見つめながら、多様な選択肢の中で試行錯誤し、自らの可能性を検証しようとする姿が広がっています。大学教育にも、学習者の主体性を支え、実社会との接続を強化し、経験を意味化できる学びの設計が求められています。

このような社会変動のただ中で、インターンシップはかつてよりも重い意義を帯びています。それは単に「職業体験」や「就業機会の提供」にとどまるものではありません。インターンシップは、多様な主体が協働し、未来を担

う人材が経験を通じて自己を探究し、社会との関係性を結び直していくための公共的な装置であると、私は考えています。

同時に、インターンシップは目的そのものではなく、教育的・社会的な目的を実現するための手段です。だからこそ、その質を問い続け、エビデンスに基づき、理念を実装し、成果を共有し続けることが求められます。制度や名称の議論に終始するのではなく、「どのような経験が、どのような学びや成長、そして社会的価値を生むのか」という本質的問いを、私たちは社会とともに深めていく必要があります。

私は本学会の目指す方向として、インターンシップの「持続的発展」という理念を掲げます。持続的発展とは、単なる拡大や延命ではなく、時代の変化に学びながら、本質を深化させ、価値を更新し続けることです。そこには、多様な主体の対話と連携、実践と研究の協働、地域や国境を越えた視点、そして未来世代への責任が組み込まれなければなりません。また、私は「持続可能」という視点のもと学会を運営していきたいと考えています。学会が持続的に発展するためには、まず学会員の拡大が不可欠であり、これは財政基盤の強化という観点からも極めて重要であります。さらに、単なる量的拡大にとどまらず、多様なバックグラウンドを有する新たな会員層の参画が求められます。また、長期的な視点からすれば、若手会員の増加とともに、学会運営への主体的な参画を促していくことが将来的な学会基盤の強化につながると考えています。

インターンシップは、社会をより良くする力を持っています。未来の社会は、誰かがつくるものではなく、私たち一人ひとりがつくり上げていくものです。本学会は、多様な立場の方々とともに、インターンシップを通じて希望を育み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。会

員の皆様と力を合わせ、次の世代へ確かな学会基盤を引き継げるよう、全力を尽くす所存であります。

皆様の温かいご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

(第6代会長 亀野淳・北海道大学)

会長退任のご挨拶

ーこれからも学術研究コミュニティを高めていきましょう

二

この度、2021 年からの 2 期 4 年の会長職を終え、ふたたび一会員として研究に向かうこととなりました。これもひとえに皆様のご支援、ご協力のおかげです。

2024 年には、1999 年の学会創設から 25 周年を迎え、『創設 25 周年記念誌』が取りまとめられました。この学会の規模拡大、組織運営体制の整備、学術研究の確立など、一会員として、また事務局長、会長としてこれまで関わってきた諸々の取組みを思い起こしながら退任のご挨拶といたします。

学術研究団体としての転換は、2008 年に田村紀男第 2 代会長のもと事務局長として日本学術会議協力学術研究団体への登録ができた時でした。会員が学術研究に取り組んでいることが公的に認められ、会員の所属組織からの見方も変わってくるのだと、多くの会員から感謝の声をいただきました。ちなみに、この協力学術研究団体の指定の要件は、(1)学術研究の向上発達を図ることを主たる目的とし、かつその目的とする分野における学術研究団体として活動しているものであること、(2)研究者の自主的な集まりで、研究者自身の運営によるものであること、(3)「学術研究団体」の場合は、その構成員(個人会員)の数が 100 人以上であること、の 3 点です。

さらに 2008 年には役員選出の会則、諸規程を策定し、学会初の理事選挙・会長選挙を実施し、2009 年に第 3 代会長に選出され、亀野淳事務局長とともにいろいろな改革を進めました。特に、2011 年度には文部科学省先導的大学改革推進事業を受託し国際比較研究を行いました。この結果は、学会に職業統合的学習(Work Integrated Learning)の理念を導入するとともに、国のインターンシップ制度見直しに寄与することとなりました。そして 2011 年度からの長尾博暢事務局長の時代には役員再任規程を策定し、次期の岡本信弘事務局長とともにその適用を進め、私も長く勤めた理事を一旦は退任しました。

そして、今回 2021 年から、規程の問題というよりも学術コミュニティとしての共通感覚に係る課題を認識し、

山口圭介事務局長の協力を得て、5 代目として再度の会長職をお引き受けしてきました。コロナ禍もつづきオンライン大会などがあり学術研究ポテンシャルが下がっていたように見えたので、私自身も、必ず年次大会での研究発表を行い、また会長講演なども企画いただき、九州支部をはじめ各支部研究活動にも積極的に参加するようにしてきました。

どれほどその取組みが成果を生み出しているのか、学術研究コミュニティとしての共通感覚というのは目に見えて測れるものではないと思います。しかしその取組みを継続することが共通感覚形成を促進することになるはずです。これからも亀野淳会長の下で、ぜひ学術研究コミュニティの共通感覚の醸成を進めていただきたいと思います。

会長就任前に編纂した 2021 年刊行の『インターンシップ研究年報』第 24 号に「日本的インターンシップから職業統合的学習へ ―研究視座の総合と体系化に向けて―」の論文を掲載したのもそうした観点からでした。その論文の中で、学問の考え方について、以下のような 12 世紀欧州の神学者サン・ビクトールのフーゴーの言葉を紹介しています。

「祖国が甘美であると思う人はいまだ繊弱な人にすぎない。けれども、すべての地が祖国であると思う人はすでに力強い人である。がしかし、全世界が流涕(るたく)の地であると思う人は完全な人である。第一の人は世界に愛を固定したのであり、第二の人は世界に愛を分散させたのであり、第三の人は世界への愛を消し去ったのである」

(阿部謹也(2001)『学問と「世間」』岩波新書、24-25 頁)

この学会では、研究対象となりうるインターンシップの実施や改善に、業務として関わる会員が多くいます。しかし、自らの業務がそのまま実践的な研究の対象となるという錯覚をしてはならないと思います。自分の実践や所属校の事例発表をする場合に、それが「甘美な祖国」となっていないかどうか、しっかり吟味が必要です。自らの大切な実践事例をいかに相対化してみるか、他の実践事例と比較するための準拠枠組み(frame of reference)をもっていることが鍵なのです。自らのユニークな実践の経験を、その複雑な文脈性を等閑視し、捨象し、ごく限定的な比較枠組みでの「検証」、「礼賛」となるのであれば、それは「繊弱な人」であり、研究としての展開が見込めないものとなるのです。もちろん、ただ単に自分の実践事例やツールを売り込むというような営利的なアプローチは、学術研究コミュニティにはおおよそ

似つかわしくない、最も遠いところにあります。営利でないとしても、自校礼賛、自画自賛の研究は、他の事例を持たないので、いくら研究発表をしても深まらず、同じことの繰り返しになってしまいます。

私も今後は学術協力会員として、この学会で研究対象と自らの仕事の関係が近いことによる難しさがあることをしっかり認識し、またそれを越えて学術研究コミュニティの共通感覚を醸成していきたいと考えています。

この紙面には歴代の事務局長のお名前だけしか書けませんでした。会長職をなんとか務めることができたのは、役員の皆様、会員の皆様のご支援、ご協力の賜物です。また9月の会長交代の北海道大会の折には、大会終了最後に、北海道支部の皆様から過分な慰労をいただきましたこと、誠に恐縮しており、また私の大切な思い出となりました。

あらためて会員のみなさまに感謝、感謝を申し上げます。

(前会長 吉本圭一・滋慶医療科学大学)

第26回大会(北海道武蔵女子短期大学)を終えて

2025年9月13日(土)・14日(日)に、第26回大会を北海道新聞社ビル内 DO-BOX EAST(札幌市中央区)にて開催いたしました。大会テーマを「社会と共に学び、成長する:地域×グローバル×イノベーション」とし、前大会「共創による新たなインターンシップの展望」での議論をふまえ、今後のインターンシップを考えるうえで、社会変化を見据えつつ、グローバルな視点や新たな産業・働き方におけるイノベーションの要素も取り入れながら議論を深めることを期待して企画したものです。

大会1日目の基調講演では「HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE ～多様なパートナーと共につくる共同創造空間化～」をテーマに、柳下堅志氏(株式会社ファイターズスポーツ&エンターテインメント管理統轄本部管理統括部統括部長兼総務人事部部长)より、エスコンフィールド HOKKAIDO を中心としたボールパーク構想によるまちづくりの取組や、企業活動の事例、多様な人材育成についてご講演をいただきました。続くシンポジウムでは、原 一将北海道支部長(札幌国際大学)をモデレーターとし、「地域×グローバル×イノベーション」をキーワードに、北海道各地域での特色ある取り組みについて、古川拓実氏(株式会社ファイターズスポーツ&エンターテインメント)、金子直広氏(北海道後志総合振興局)、川田岳論氏(川田工業株式会社)の三氏より事例紹介と人材育成に関するお話をいただきました。

また、学会表彰委員会から、2024年度(第18回)高良記念研究助成報告として、安藤奏会員・野島朋子会員(NPO 法人ブランディングポート)、岡靖子会員(琉球大学)、川端千鶴会員(北海道大学)より成果報告がなされました。さらに、2025年度(第19回)の採択結果として、宮崎愛弓会員(目白大学)、新村拓也会員(宮崎公立大学)の受賞が発表されました。加えて、2025年度(第6回)榎本記念賞授賞式が行われ、最も秀逸なインターンシップとして松林康博会員の名古屋産業大学の取り組み、秀逸なインターンシップとして川上あき会員(北海道大学)、上岡史郎会員(目白大学短期大学部)、柴田仁夫会員(岐阜大学)、岡本信弘会員(博多工業高等学校)、宮崎愛弓会員(目白大学)、法人会員の NPO 法人ブランディングポートの取り組みが表彰されました。

大会2日目は、会員による研究発表13件(3会場)が行われ、活発な議論が交わされました。大会参加申込者は86名で、うち17名は非会員の方でした。講演者・シンポジスト、学生スタッフ、関係者を含めると100名を超える多くの方に参加いただきました。懇親会には49名のお申込みがあり、基調講演者・シンポジストの皆さまにもご参加いただき、日中の講演内容をふりかえりつつ、和やかで有意義な時間となりました。

今回は、大会会場を大学外に設け、札幌の街も楽しんでいただきたと考えておりました。大会期間中はお時間が限られていたかもしれませんが、大会冊子の表紙にある大通公園・テレビ塔が望める場所で開催することができ、少しでも北海道の空気に触れていただけたなら幸いです。

最後になりますが第26回大会にご参加いただいた皆様、運営にご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。次年度の熊本学園大学での第27回大会で皆さまにお目にかかるのを楽しみにしております。嶋田先生、よろしくお願いいたします。

(第26回大会実行委員長 高橋秀幸・
北海道武蔵女子短期大学)

第27回大会(熊本学園大学)開催に向けて

第27回大会は、2026年9月12日(土)・13日(日)の2日間、熊本学園大学にて対面形式で開催いたします。同大学での開催は初めてとなります。大会実行委員会は九州支部運営委員が担当いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。最新情報については、学会ウェブサイトやメルマガ等でご案内する予定です。また、大会ホームページの開設、参加申込受付開始のご

案内、「研究発表」募集のお知らせについても、随時発信を行ってまいります。大会テーマは「インターンシップの社会的価値とは～地域社会・経済への貢献～」としました。前大会で議論された「社会と共に学び、成長する」を踏まえて、あらためてインターンシップが持つ社会的な価値や意義を職業統合的学習（WIL）の観点から議論を深めてまいりたいと考えています。

今回の開催校である熊本学園大学は、1942 年（昭和 17 年）に「東洋語学専門学校」として創立され、その後 4 年制大学として熊本商科大学から熊本学園大学と発展を続け、2022 年に創立 80 周年を迎えました。現在は、付属幼稚園、附属中学・高校、大学院からなる文系総合大学です。

また、地元熊本からの 8 割の入学者を迎え、7 割の卒業生が地元就職する地域立大学として、「師弟同行」「自由闊達」「全学一家」の建学の精神のもとで、地域に根差し、世界に飛躍する人材育成に努めています。

熊本は、九州の中央部に位置し、阿蘇山や天草などの豊かな自然、温暖な気候、そして豊富な地下水があり、熊本市は政令指定都市でありながら地下水を 100% 使用する「水の国」としても知られています。最近では、半導体最大手の TSMC とその関連企業の進出により、製造業を中心とした地域活性化が進んでいます。また、日本三大名城の熊本城、阿蘇地域は世界農業遺産に認定され、天草はキリシタン文化の中心地という歴史と文化を持っています。農業県として、豊富な農畜産物があり「馬刺し・いきなり団子・太平燕、辛子蓮根」などの

郷土料理が有名です。

今後のインターンシップ・職業統合的学習の更なる発展に向けた活発な議論が展開される「機会」「場」となる大会開催に向けて、会員の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

（第 27 回大会実行委員長 嶋田文広・熊本学園大学）

2025 年度総会報告

2025 年度総会が、2025 年 9 月 13 日（第 26 回大会 1 日目）に対面とオンラインの併用（対面会場：DO-BOX EAST 札幌市中央区）形式で開催されました。2025 年度総会では、次の 7 つの議題および議案についての審議が行われ、承認されました。

(1) 2025-2026 年度の運営体制（案）

(2) 2024 年度 事業報告（案）

(3) 2024 年度 決算報告（案）

2024 年度 監査報告

(4) 2025 年度 事業計画（案）

(5) 2025 年度 予算（案）

(6) 2025 年度 高良記念研究助成

ならびに槇本記念賞について

(7) 第 27 回大会について（案）

（事務局長 伊藤文男・追手門学院大学）

2025-2026 年度 運営体制

1. 役員（50 音順、敬称略）

会 長：亀野 淳

副 会 長：稲永 由紀、牛山 佳菜代、山口 圭介

常任理事：伊藤 文男、今永 典秀、江藤 智佐子、見目 喜重、手嶋 慎介

理 事：桑畑 夏生、岩井 貴美、佐々木 ひとみ、二上 武生、原 一将、見館 好隆、宮田 弘一

監 事：平尾 元彦、松高 政

事務局長：伊藤 文男

〈参考〉会則第 18 条

次に掲げる事項は、総会の議決を経なければならない。

(1) 会則の変更

(2) 役員を選任

2024 年度 事業報告

1. 2024 年度事業期間

2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日

2. 事業の概要

- | | | |
|----------------------------------|--------|------------------|
| (1) 第 25 回大会の開催 | 2024 年 | 9 月 14 日 |
| *開催校:愛知東邦大学(対面開催) | | ～15 日 |
| (2) 支部研究会の開催 | | |
| *詳細は別途 | | |
| (3) 学会研究活動の企画・推進 | — | |
| *「日本インターンシップ学会会員アンケート」調査の実施・検討 | | |
| *「学会活動促進セミナー」の開催 | 2025 年 | 1 月 20 日 |
| (4) 『インターンシップ研究年報』第 27 号発行 | 2024 年 | 10 月 31 日 |
| (5) News Letter の発行及びその他の広報活動の充実 | No.1 | 2024 年 11 月 30 日 |
| | No.2 | 2025 年 5 月 31 日 |
- *ホームページの改定が完了した。
- (6) 2024 年度 高良記念研究助成実施
2025 年度 高良記念研究助成募集・選考
第 6 回 楨本記念賞選考

3. 総 会

定 例 2024 年 9 月 14 日 愛知東邦大学(対面とオンラインによるハイブリッド開催)

4. 理事会

- | | | | | |
|-------|--------|------|------|--------------------|
| 第 1 回 | 2024 年 | 8 月 | 12 日 | (Web 会議) |
| 第 2 回 | 2024 年 | 9 月 | 11 日 | (Web 会議) |
| 第 3 回 | 2024 年 | 12 月 | 23 日 | (Web 会議) |
| 第 4 回 | 2025 年 | 2 月 | 23 日 | (対面&Web 会議:於 目白大学) |
| 第 5 回 | 2025 年 | 5 月 | 25 日 | (Web 会議) |
| 第 6 回 | 2025 年 | 6 月 | 30 日 | (書面会議) |

5. 各支部報告

- | | | |
|--|--------|-----------|
| (1) 北海道支部 | | |
| ①支部総会 | 2024 年 | 7 月 13 日 |
| ②運営委員会 | 2024 年 | 10 月 7 日 |
| | 2024 年 | 10 月 29 日 |
| ③第 1 回研究会(於:北海商科大学/ハイブリッド開催) | 2025 年 | 3 月 9 日 |
| ④第 2 回研究会(於:札幌国際大学サテライトキャンパス) | 2025 年 | 6 月 8 日 |
| (2) 東日本支部 | | |
| ①第 1 回研究会(於:目白大学/ハイブリッド開催) | 2024 年 | 2 月 10 日 |
| ②第 2 回研究会(Web 開催) | 2024 年 | 4 月 30 日 |
| ③第 3 回研究会(於:NPO 法人 G-net/ハイブリッド開催) | 2025 年 | 6 月 22 日 |
| ④支部総会(於:NPO 法人 G-net/ハイブリッド開催) | 2025 年 | 6 月 22 日 |
| (3) 関西支部 | | |
| ①運営委員会(於:キャンパスポート大阪/ハイブリッド開催) | 2024 年 | 10 月 24 日 |
| ②第 19 回研究会(於:キャンパスポート大阪/ハイブリッド開催) | 2024 年 | 12 月 14 日 |
| (4) 九州支部 | | |
| ①支部運営委員会(久留米大学福岡サテライトキャンパス/ハイブリッド開催) | 2024 年 | 7 月 26 日 |
| ②支部総会(久留米大学福岡サテライトキャンパス/ハイブリッド開催) | 2024 年 | 7 月 26 日 |
| ③第 33 回研究会(久留米大学福岡サテライトキャンパス/ハイブリッド開催) | 2024 年 | 12 月 2 日 |
| ④第 34 回研究会(久留米大学福岡サテライトキャンパス/ハイブリッド開催) | 2025 年 | 2 月 22 日 |

2024年度 日本インターンシップ学会 一般会計 収支計算書

(2024年7月1日～2025年6月30日)

一般会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2024年度予算(a)	2024年度決算(b)	予実差異(b-a)
会費収入	小計	2,250,000	2,285,000	35,000
	個人会員	1,602,000	1,580,000	-22,000
	学生会員	18,000	25,000	7,000
	法人・団体会員	630,000	680,000	50,000
事業収入	小計	0	0	0
	研究会収入	0	0	0
	書籍・年報等販売収入	0	0	0
雑収入	小計	0	792,744	792,744
	その他の収入	0	0	0
	大会開催費余剰金	0	0	0
	北海道支部余剰金	0	111,529	111,529
	東日本支部余剰金	0	161,423	161,423
	関西支部余剰金	0	344,680	344,680
	九州支部余剰金	0	175,112	175,112
当期収入合計(A)		2,250,000	3,077,744	
前期繰越金		8,870,168	8,870,168	
収入合計(B)		11,120,168	11,947,912	

一般会計【支出の部】

大科目	中科目	2024年度予算(a)	2024年度決算(b)	予実差異(b-a)
F	小計	2,000,000	1,599,566	-400,434
	北海道支部活動費	200,000	200,000	0
	東日本支部活動費	200,000	200,000	0
	関西支部活動費	200,000	200,000	0
	九州支部活動費	200,000	200,000	0
	大会開催費(大会開催準備費)	300,000	300,000	0
	年報作成費	400,000	347,127	-52,873
	J-stage掲載関連費	0	15,400	15,400
	記念事業費	400,000	0	-400,000
	役員選挙費	100,000	137,039	37,039
事務管理費	小計	3,270,000	2,153,206	-1,116,794
	通信費(郵送料等)	120,000	43,886	-76,114
	HP管理費	1,000,000	883,300	-116,700
	役員・委員等旅費補助	350,000	100,000	-250,000
	業務外部委託費	1,200,000	995,392	-204,608
	広報委員会経費	300,000	0	-300,000
	企画研究委員会経費	200,000	33,000	-167,000
	その他運営費	100,000	97,628	-2,372
当期支出小計		5,270,000	3,752,772	-1,517,228
特別会計へ	積立金	300,000	300,000	0
	寄付金	0	0	0
予備費	予備費	5,550,168	0	-5,550,168
当期支出合計(C)		11,120,168	4,052,772	
当期収支差額(A)-(C)		-8,870,168	-975,028	
次期繰越金(B)-(C)		0	7,895,140	
支出合計		11,120,168	11,947,912	

2024年度 日本インターンシップ学会 特別会計 収支計算書

(2024年7月1日～2025年6月30日)

特別会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2024年度予算(a)	2024年度決算(b)	予実差異(b-a)
寄付金		0	0	0
積立金	小計	300,000	300,000	0
	一般会計より	300,000	300,000	0
雑収入	小計	0	0	0
	その他の収入	0	0	0
当期収入合計(A)		300,000	300,000	
前期繰越金		103,811	103,811	
収入合計(B)		403,811	403,811	

特別会計【支出の部】

大科目	中科目	2024年度予算(a)	2024年度決算(b)	予実差異(b-a)
特別事業費	小計	300,000	300,000	0
	高良記念研究助成事業費	300,000	300,000	0
	槇本記念賞事業費	0	0	0
事務管理費	小計	1,000	165	-835
	振込手数料	1,000	165	-835
	その他	0	0	0
予備費	予備費	102,811	0	-102,811
当期支出合計(C)		403,811	300,165	
当期収支差額(A)-(C)		-103,811	-165	
次期繰越金(B)-(C)		0	103,646	
支出合計		403,811	403,811	

2024年度 日本インターンシップ学会

貸借対照表兼財産目録

(2025年6月30日 現在)

(単位:円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
【流動資産】	8,202,329	【流動負債】	203,543
預金(郵便振替口座)	7,777,206	未払費用	153,543
前払費用	300,000	前受金	50,000
未収入金	125,123		
		(純資産の部)	
		剰 余 金	7,998,786
		(一般会計繰越金)	7,895,140
		(特別会計繰越金)	103,646
資産合計	8,202,329	負債・純資産合計	8,202,329

(注) 本来は貸借対照表と財産目録を個別作成する必要があるが、
財産が僅少のため当面本表にて対応することとする。

2025 年度 事業計画

1. 2025 年度事業期間

2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日

2. 事業の概要

- | | | |
|---|--------|-------------|
| (1) 第 26 回大会の開催 | 2025 年 | 9 月 13-14 日 |
| (2) 支部研究会の開催(各支部 1～3 回程度) | — | |
| (3) 学会研究活動の企画・推進 | — | |
| (4) 『インターンシップ研究年報』第 28 号の刊行 | 2025 年 | 10 月を予定 |
| (5) News Letter の発行(年 2 回)及びその他の広報活動の充実 | — | |
| (6) 2025 年度 高良記念研究助成実施 | — | |
| 2026 年度 高良記念研究助成募集・選考 | | |

2025年度 日本インターンシップ学会 一般会計 予算

一般会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2025年度予算	2024年度予算	2024年度実績	2023年度実績	2022年度実績	予算増減
会費収入	小計	2,326,500	2,250,000	2,285,000	2,355,000	2,430,000	76,500
	個人会員(10,000円)	1,683,000	1,602,000	1,580,000	1,650,000	1,745,000	81,000
	学生会員(5,000円)	13,500	18,000	25,000	5,000	5,000	-4,500
	法人・団体会員(20,000円)	630,000	630,000	680,000	700,000	680,000	0
事業収入	小計	0	0	0	0	0	0
	研究会収入	0	0	0	0	0	0
	書籍・年報等販売収入	0	0	0	0	0	0
雑収入	小計	0	0	792,744	266,538	273,888	0
	受取利息	0	0	0	0	0	0
	その他の収入	0	0	0	0	0	0
	大会開催費余剰金	0	0	0	0	0	0
	北海道支部余剰金	0	0	111,529	0	0	0
	東日本支部余剰金	0	0	161,423	112,760	129,995	0
	関西支部余剰金	0	0	344,680	0	0	0
	九州支部余剰金	0	0	175,112	153,778	143,893	0
当期収入合計(A)		2,326,500	2,250,000	3,077,744	2,621,538	2,703,888	76,500
前期繰越収支差額		7,895,140	8,870,168	8,870,168	9,192,562	8,849,835	-975,028
収入合計(B)		10,221,640	11,120,168	11,947,912	11,814,100	11,553,723	-898,528

一般会計【支出の部】

大科目	中科目	2025年度予算	2024年度予算	2024年度実績	2023年度実績	2022年度実績	予算増減
事業費	小計	1,500,000	2,000,000	1,599,566	1,717,639	1,371,442	-500,000
	北海道支部活動費	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	0
	東日本支部活動費	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	0
	関西支部活動費	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	0
	九州支部活動費	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	0
	大会開催費(大会開催準備費)	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	0
	年報作成費	400,000	400,000	347,127	277,607	246,752	0
	J-stage掲載関連費	0	0	15,400	0	0	0
	記念事業費	0	400,000	0	307,032	0	-400,000
	役員選挙費	0	100,000	137,039	33,000	24,690	-100,000
事務管理費	小計	2,760,000	3,270,000	2,153,206	1,126,293	1,162,634	-510,000
	通信費(郵送料等)	120,000	120,000	43,886	13,730	52,970	0
	HP管理費	240,000	1,000,000	883,300	89,650	54,962	-760,000
	役員・委員等旅費補助	600,000	350,000	100,000	0	0	250,000
	業務外部委託費	1,200,000	1,200,000	995,392	1,006,687	1,041,947	0
	広報委員会経費	300,000	300,000	0	0	0	0
	企画研究委員会経費	200,000	200,000	33,000	0	8,960	0
	その他運営費	100,000	100,000	97,628	16,226	3,795	0
当期支出小計		4,260,000	5,270,000	3,752,772	2,843,932	2,534,076	-1,010,000
特別会計へ	積立金	300,000	300,000	300,000	100,000	100,000	0
	寄付金	0	0	0	0	0	0
予備費	予備費	5,661,640	5,550,168	0	0	0	111,472
当期支出合計(C)		10,221,640	11,120,168	4,052,772	2,943,932	2,634,076	-898,528
当期収支差額(A)-(C)		-7,895,140	-8,870,168	-975,028	-322,394	69,812	975,028
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	7,895,140	8,870,168	8,919,647	0

*会費収入は、5月24日[2024年度最後の理事会時]現在の会員数:225件(個人会員187件/学生会員3件/法人・団体会員35件)をもとに作成:会員数×会費×90%

2025年度 日本インターンシップ学会 特別会計 予算

特別会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2025年度予算額	2024年度予算額	2024年度実績	2023年度実績	2022年度実績	予算増減
寄付金		0	0	0	0	0	0
積立金	小計	300,000	300,000	300,000	100,000	100,000	0
	一般会計より	300,000	300,000	300,000	100,000	100,000	0
雑収入	小計	0	0	0	0	23,964	0
	受取利息	0	0	0	0	0	0
	その他の収入	0	0	0	0	23,964	0
当期収入合計(A)		300,000	300,000	300,000	100,000	123,964	0
前期繰越収支差額		103,646	103,811	103,811	103,811	79,931	-165
収入合計(B)		403,646	403,811	403,811	279,931	203,895	-165

特別会計【支出の部】

大科目	中科目	2025年度予算額	2024年度予算額	2024年度実績	2023年度実績	2022年度実績	予算増減
特別事業費	小計	300,000	300,000	300,000	100,000	100,000	0
	高良記念研究助成事業費	300,000	300,000	300,000	100,000	100,000	0
	槇本記念賞事業費					0	0
事務管理費	小計	1,000	1,000	165	0	84	0
	振込手数料	1,000	1,000	165	0	0	0
	その他	0	0	0	0	84	0
予備費	予備費	102,646	102,811	0	0	0	-165
当期支出合計(C)		403,646	403,811	300,165	100,000	100,084	-165
当期収支差額(A)-(C)		-103,646	-103,811	-165	0	23,880	165
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	103,646	103,811	103,811	0

理事会報告

2024年度 第5回理事会

(2025年5月25日 *Web会議)

入退会の審査、第26回大会開催計画、新理事及び新会長選出スケジュールについての協議を行いました。また、前回理事会の議事録を確認するとともに、各委員会・各支部の活動状況が報告されました。協議の概要は次のとおりです。

(1) 入退会の審査

・事務局より資料が提示され、協議の結果、2件(個人会員)の入会と2件(個人会員2件)の退会が承認されました。また、会員の自然退会について問題提起がなされ、次回理事会で協議することとなりました。

(2) 第26回大会開催計画

・大会実行委員より、資料に基づき第26回大会開催計画及び会場などの事項について説明があり、協議の結果、承認されました。

(3) 2025-26年度 新理事及び新会長選出スケジュール(案)

・選挙管理委員長より、資料に基づき2025-26年度新理事及び新会長選挙に関する説明があり、承認されました。

2024年度 第6回理事会

(2025年6月30日 *臨時書面会議)

入会の審査についての協議が、臨時書面会議として行なわれました。

(1) 入会の審査

・事務局より資料が提示され、臨時書面会議により書面表決を行った結果、2件(法人・団体会員)の入会が承認されました。

2025年度 第1回理事会

(2025年8月3日 *対面・Web会議)

入退会の審査、第26回大会開催計画、規程の策定・改訂及び2025年度学会活動方針についての協議を行いました。また、前回理事会の議事録を確認するとともに、各委員会・各支部の活動状況が報告されました。協議の概要は次のとおりです。

(1) 入退会の審査

・事務局より資料が提示され、協議の結果、3件(個人会員)の入会と14件(個人会員10件・学生会員1件、法人団体会員3件)の退会が承認されました。

・事務局より、会費未納期間の1年延長に関する特例の廃止について提案があり、協議の結果、承認されました。併せて、次回理事会においては、会費未納に伴う自然退会について協議することが確認されました。

(2) 第 26 回大会開催計画

・大会実行委員より、資料に基づき第 26 回大会のプログラム案とその詳細について説明があり、協議の結果、承認されました。

(3) 規程の策定・改訂について

・広報委員会委員長より「広報委員会規程(案)」が、企画研究委員長より「企画研究委員会規程(案)」が提案され、次回理事会で協議することとなりました。また、事務局より「日本インターンシップ学会理事選挙規程」の改正案が提案され、協議の結果、理事の指摘を受け、改めて協議することとなりました。

(4) 2025 年度学会活動方針について

・会長より、資料に基づいて、2025 年度活動方針が提示され、協議の結果、承認されました。

2025 年度 第2回理事会

(2025 年 9 月 8 日 *Web 会議)

入退会の審査、第 26 回大会開催計画、総会議案の確認及び各委員会の規程などについての協議を行いました。また、前回理事会の議事録を確認するとともに、各委員会・各支部の活動状況が報告されました。協議の概要は次のとおりです。

(1) 入退会の審査

・事務局より、資料に基づいて説明があり、協議の結果、2件の退会(個人会員、1 名が即時退会、もう 1 名が年度末退会)が承認されました。

(2) 第 26 回大会開催計画

・大会実行委員長より、資料に基づいて最終プログラム及び参加者へのお願い事項について説明があり、協議の結果、承認されました。

(3) 総会議案の確認

・事務局より、資料に基づいて総会議事資料について説明があり、協議の結果、承認されました。

(4) 各委員会の規程などについて

・事務局より、資料に基づいて、日本インターンシップ学会年報編集委員会規程、日本インターンシップ学会学会表彰委員会、日本インターンシップ学会企画研究委員会、日本インターンシップ学会広報委員会規程について説明があり、協議の結果、一部文言の修正が提案され、修正案が承認されました。

・日本インターンシップ学会理事選挙規程の改正案が提案され、協議の結果、承認されました。なお、当該規程についても、他の委員会規程と同様の形式に揃えるよう要請があり、次期理事会に引き継ぐこととなりました。

2025 年度 第3回理事会

(2025 年 10 月 24 日 *Web 会議)

新会長・新執行部となって初回の理事会のため、今後の学会の理事会や事務局などの運営体制に関する説明、会長からの所信表明が行われました。

次いで、各委員長や今回から発足するワーキング長、各委員などの組織体制、第 26 回大会(北海道)の決算、第 27 回大会(九州)の準備状況及び入退会の審査などについての協議を行いました。

さらに、各委員や支部も新体制となる中、各委員長・ワーキング長からの挨拶、各支部長から支部の報告がありました。協議の概要は以下のとおりです。

(1) 各委員長・ワーキング長

・会長より、①委員会規程、②ワーキングの役割と内容、③委員長・ワーキング長に関する説明があり、協議の結果、承認されました。

(2) 各委員

・会長より、各委員・ワーキング委員について説明があり、協議の結果、承認されました。

(3) 総会資料の修正

・事務局より、総会資料について、議決事項以外の箇所に誤植があったことが報告され、協議の結果、修正することが承認されました。

(4) 第 2 回理事会議事録確認

・事務局より、前回の第 2 回理事会議事録案について説明があり、承認されました。なお、慎重を期して、10 月 27 日午前中をメ切として確認の要請があり、各理事からの修正案もなく承認されました。

(5) 入退会の審査

・事務局より資料が提示され、協議の結果、1 件(学生会員)の入会、1 件(個人会員)の退会が承認されました。

(6) 第 26 回大会決算

・北海道支部長より、第 26 回大会の開催報告とともに決算資料が提示され、協議の結果、承認されました。

(7) 第 27 回大会準備状況

・九州支部長より、第 27 回大会準備状況について説明があり、協議の結果、承認されました。日程は、2026 年 9 月 12 日(土)・13 日(日)であり、既に日程と会場については、ホームページへ掲載済みであることの補足説明がありました。

・事務局より、大会実行委員長にも、今後の理事会にはオブザーバーとして出席していただき、直接大会の準備状況について説明いただく予定であることが説明され、協議の結果、承認されました。

(8)日本インターンシップ学会会則の付則の修正

・事務局より、本学会会則の付則の取り扱いに関し、ガバナンスに関する知見を有する理事及び監事からのアドバイスを受け、今後検討したいと提案がありました。

2025 年度 第 4 回理事会

(2025 年 12 月 7 日 *Web 会議)

第 27 回大会の準備状況について、今回から大会実行委員長がオブザーバーとして参加しました。

第 27 回大会の基本計画案とスケジュール案、入退会の審査、日本インターンシップ学会会則の付則の扱い、学会表彰委員会副委員長の承認及びその他学会が事業の後援をする件について協議されました。

また、事務局より、総会の資料の確認結果、前回理事会の議事録承認結果の報告がありました。併せて、事務局から、次回以降の理事会での検討を前提として学会の規程等の一覧が提示されました。

各委員会・ワーキング・支部からも報告があり、特に社会連携・会員獲得ワーキングの検討状況についてワーキング長から報告があり、各理事との意見交換を行いました。当日の協議の概要は以下のとおりです。

(1)第 27 回大会の基本計画案とスケジュール案策定について

・大会実行委員長より、1 日目の講演・シンポジウム、2 日目の研究発表について説明があり、協議の結果、承認されました。加えて、会長より会場校である熊本学園大学への訪問・挨拶等の現状報告がありました。

(2)入退会の審査

・事務局より資料が提示され、協議の結果、1 件(法人・団体会員)の入会、2 件(個人会員 1 件、法人・団体会員 1 件)の退会が承認されました。

(3)日本インターンシップ学会会則の付則の扱いについて

・事務局より、会則の付則の修正について説明があり、協議の結果、承認されました。

(4)学会表彰委員会副委員長の承認について

・事務局(学会表彰委員会委員長代理)より、副委員長候補の提案があり、協議の結果、承認されました。

・前回の承認を含めて、日本インターンシップ学会 委員会・WG の 2025-26 学会年度の構成は以下の通りとなりました(50 音順、敬称略)。

年報編集委員会

委員長:山口圭介(玉川大学)

副委員長:江藤智佐子(久留米大学)

委員:三保紀裕(京都先端科学大学)

宮田弘一(静岡産業大学)

吉本圭一(滋慶医療科学大学)

広報委員会

委員長:見目喜重(豊橋創造大学)

副委員長:宮崎愛弓(目白大学)

委員:石田麻英子(札幌国際大学短期大学部)

吉田優子(株式会社アッテミー)

渡邊和明(鹿児島大学)

学会表彰委員会

委員長:稲永由紀(筑波大学)

副委員長:上岡史郎(目白大学短期大学部)

委員:岡本信弘(博多工業高等学校)

小林純(札幌国際大学短期大学部)

中井咲貴子(園田学園大学)

企画研究委員会

委員長:桑畑夏生(宮崎大学)

副委員長:古田克利(法政大学)

委員:佐々木ひとみ(東京家政学院)

原一将(札幌国際大学)

眞鍋和博(北九州市立大学)

倫理規程制定 WG

委員長:稲永由紀(筑波大学)

委員:岩井貴美(近畿大学)

古田克利(法政大学)

山口圭介(玉川大学)

支部体制・大会運営検討 WG

委員長:牛山佳菜代(目白大学)

副委員長:高橋秀幸(武蔵女子短期大学)

委員:井本浩之(西九州大学)

大串恵太(追手門学院大学)

手嶋慎介(愛知東邦大学)

二上武生(工学院大学)

社会連携・会員拡大 WG

委員長:今永典秀(コー・イノベーション大学)

副委員長:見館好隆(北九州市立大学)

委員:安藤奏(NPO 法人ブランディングポート)

井崎美鶴子(目白大学短期大学部)

若林悦子(公益社団法人つばめいと)

(5)その他

・会長より、学会への後援依頼があった場合、会長・事務局での決定と理事会報告によって対応する案が説明され、協議の結果、承認されました。併せて、今後その決定基準や申請様式等を検討することが確認されました。

(事務局長 伊藤文男・追手門学院大学)

年報編集委員会報告

『インターンシップ研究年報』第 28 号の発刊について

『インターンシップ研究年報』第 28 号の発刊が遅れておりますこと、深くお詫び申し上げます。年明けにはお届けできるかと思っておりますので、もう少しお時間をいただければ幸いです。本号には「研究論文」へ3本、「資料等」へ4本の投稿をいただき、うち3本を「資料等」(事例紹介)として掲載いたしました。また、記事「学会大会の部」原稿作成にあたっては、手嶋慎介大会実行委員長(愛知東邦大学)に大きなお力をいただくことができました。その他、編集に際しお力を戴きました全ての会員のみなさまに、改めまして深くお礼申し上げます。

(年報編集委員会[前]委員長 稲永由紀・筑波大学)

『インターンシップ研究年報』第 29 号投稿へのお願い

会員向けメルマガにて既にご案内申し上げておりますとおり、第 29 号へ掲載する研究論文を募集中です。【投稿締切は、2026 年 1 月 26 日(月) 23:59(厳守)】です。投稿をお考えの方は、本学会ウェブサイトに掲載しております「編集規程」ならびに「第 29 号研究論文・資料等投稿規程」を必ず確認し、規程にしたがい投稿してください。なお、投稿には、新しくなった年報編集委員会のメールアドレス(jsi.edit@jsinternship.jp)をお使いくださいますようお願い申し上げます。

また、第 28 号より「投稿規程」が一部改訂され、「研究論文」と「資料等」との非連続性が明記されています(「投稿規程」2.)。これは、インターンシップ研究にとって価値ある情報であれば、科学論文・学術論文の体裁を取らずとも「資料等」として投稿できる、ということを明記したものです。実践者と研究者の集うこの学会のメリットを最大限活かすべく、「資料等」にも積極的にご投稿ください。一方でこの明記は、科学論文・学術論文の体裁を取るものは、必ず「研究論文」として投稿しなければならない、ということでもあります。それゆえ、ご投稿の際には、適切な投稿区分の選択をお願いいたします。

会員のみなさまからの意欲的な投稿を、心よりお待ちしております。

研究倫理遵守のお願い

近年、研究倫理に関して一定の指針を出す学会等が増加し、特にヒトを相手にする調査研究については所属組織内の倫理審査委員会の審査を通すことが必須となっています。本学会でも指針の策定に向けた WG が設立され議論が進められていますが、「投稿規程」には既に研究倫理の遵守が記載されています。

特に、実践をベースに研究をするというスタイルを取る

会員の多い本学会において、業務上知り得た情報に基づいた学術論文の執筆・公表が難しくなりつつある、という点には注意が必要です。他の学会では、データの学術論文目的での使用について調査対象者や所属組織からの許諾がない、という理由で学会誌への論文掲載が見送られる事例も生じています。投稿予定の会員の皆さまにおかれましては、まずは所属機関や他の所属学会等の研究倫理関係規程を遵守の上で、投稿いただきますようお願いいたします。

(年報編集委員会[新]委員長 山口圭介・玉川大学)

広報委員会報告

ニュースレターの発行、学会 Web サイト・メールマガジンの配信について

広報委員会では、年 2 回(春、秋)にニュースレターを発行し、会員の皆様に学会活動の情報をお届けしています。この度の 2025 年第 1 号につきまして、当初の予定よりも遅れての発行となりましたこと、深くお詫び申し上げます。

また、学会 Web サイトやメールマガジン配信について、広報委員会では本学会に寄せられた研究会やセミナー開催案内および教員公募等、会員の皆さまにとって有益な情報を学会 Web サイトに掲載するほか、随時、メルマガで配信しております。本学会に関連する情報がございましたら、広報委員会までメールでご連絡ください(jsi.prc@gmail.com)。なお、最終的な掲載可否は広報委員会で検討させていただきますのでご了承ください。

会員情報更新・アドレス連絡について

ご異動等で会員情報に変更された場合(メールアドレスや所属など)には、学会 Web サイトトップページの「会員情報照会・更新」アイコンから各自で情報更新をお願いいたします。大切なご案内等が届かないことにもなりますので、お早目の更新をお願いいたします。

(広報委員会委員長 見目喜重・豊橋創造大学)

学会表彰委員会報告

高良記念研究助成報告

本学会では、2007 年度からインターンシップに係る研究・実践活動の発展・普及のため、若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進に向けて「高良記念研究助成」制度を設け、優れた研究課題への研究助成を行っております。

今回は 3 件のエントリーをいただきました。委員による厳正な審査の結果、以下の 2 件を採択させていただきました。

先日開催された第 26 回大会にて発表・表彰が行われました。採択者の研究報告は 2026 年に予定されている第 27 回大会にて行われる予定です。

- ・宮崎愛弓会員（目白大学）「デザイン思考を取り入れたインターンシップ合同振り返りワークショップによるキャリア意識の変容とリフレクション能力の向上に関する研究」
- ・新村拓也会員（宮崎公立大学）「実践型インターンシップにおける社会人基礎力自己評価の低下現象とその背景要因」

また、前回 2024 年度に採択された、安藤奏会員・野島朋子会員（以上、NPO 法人ブランディングポート）の「長期実践型インターンシップにおけるメンターの意義とその関わり-NPO 法人ブランディングポートによる B-CAMP の事例より」、岡靖子会員（琉球大学）の「大学生のキャリア選択におけるインターンシップの効果-量的・質的調査から見えてきたもの-」、川端千鶴会員（北海道大学）の「学士課程での国際インターンシップにおける大学教育と職業の接続に関する研究-卒業生のキャリア意識とダイバーシティへの理解に着目して-」、の 3 件の成果報告も、先日行われた第 27 回大会において行われました。

楨本記念賞報告

楨本記念賞は、学会顧問、大阪経済大学名誉教授の楨本淳子先生のご寄付により創設され、2015 年の全国大会より 2 年毎に「秀逸なインターンシップ」事例を選定し、表彰を行っております。

昨年度は全国から推薦された事例の中から厳正な審査を行った結果、以下の 5 件の事例が「秀逸な事例」として選定され、第 26 回大会にて表彰されました（〔 〕内は推薦方式）。

【最も秀逸な事例（1 件）】

- ・[支部推薦]名古屋産業大学（松林康博会員）「必修科目の長期インターンシップと事前の教育プログラム-名古屋産業大学 経営専門職学科の事例-」

【秀逸な事例（6 件）】

- ・[支部推薦]北海道大学（川上あき会員）「北海道大学における多様なインターンシップ～教職協働・大学全体として実施する社会連携の促進～」
- ・[支部推薦]目白大学短期大学部（上岡史郎会員）「地域連携型アクティブラーニングによる汎用的能力の変化についての一考察」
- ・[支部推薦]岐阜大学（柴田仁夫会員）「課題解決型実習から課題設定型実習へー往還型学習によるキャリアアンカーの確立」

- ・[支部推薦]博多工業高等学校（岡本信弘会員）「博多工業高等学校におけるインターンシップ 25 年の取り組み」
- ・[委員推薦]目白大学（宮崎愛弓会員）「産学連携インターンシッププログラムの設計と課題～目白大学メディア学部におけるインターンシップの実践より～」
- ・[委員推薦]NPO 法人ブランディングポート（法人会員）「長期実践型インターンシップにおける専属メンターの内省支援-NPO 法人ブランディングポートによる B-CAMP の事例より」

学会表彰委員会新体制

2025 年度より学会表彰委員会が改編され、以下のような体制でスタートしました。どうぞよろしくお願いいたします。

- 委員長 稲永由紀（筑波大学）
副委員長 上岡史郎（目白大学短期大学部）
委員 岡本信弘（博多工業高等学校）
小林純（札幌国際大学短期大学部）
中井咲貴子（園田学園大学）
（学会表彰委員会委員長 稲永由紀・筑波大学）

企画研究委員会報告

企画研究委員会は、学会員の皆さまの多様な学術的・実践的な研究活動、特に共同研究の推進を目的として、調査や研究活動、セミナー等の企画・実施に取り組む委員会です。このたび、新たな委員会体制がスタートしました。今後は、新体制のもと、会員の皆さまの研究関心や実践知を踏まえながら、学会全体の研究活動がより活発になるような企画を検討してまいります。今後の具体的な活動内容につきましては、委員会内での協議を踏まえ、順次ご案内いたします。新体制は、以下のとおりです。どうぞよろしくお願いいたします。

- 委員長 桑畑夏生（宮崎大学）
副委員長 古田克利（法政大学）
委員 佐々木ひとみ（東京家政学院）
原一将（札幌国際大学）
眞鍋和博（北九州市立大学）
（企画研究委員会委員長 桑畑夏生・宮崎大学）

選挙管理委員会報告

2025 年 6 月より 2025-2026 年度新理事選挙を実施いたしました。会員のみなさまのご協力により、6 月 19 日に新理事候補 15 名が選出されました。その後、新理事候補により会長選挙が行われ、7 月 18 日に新

会長候補を選出し、以下のとおり新会長候補、および新理事候補が決定しました。(敬称略、50音順)

選挙管理委員会は、8月の理事会にて新会長、新理事候補選出の最終報告を行いました。

2025-2026年度 新会長候補、新理事候補

新会長候補(1名)

亀野 淳

新理事候補(14名)

伊藤文男、稲永由紀、今永典秀、岩井貴美、牛山佳菜代、江藤智佐子、桑畑夏生、見目喜重、佐々木ひとみ、手嶋慎介、二上武生、見館好隆、宮田弘一、山口圭介

この後、新会長候補による指名理事を加え、新役員(会長、副会長、常任理事、理事、監事)、および事務局長が、新理事候補の合意により決定されました。この結果は、9月13日の総会において提案、議決されました。新体制については、総会報告にて行います。

(2024・2025年度選挙管理委員会委員長 椿明美・札幌国際大学)

支部活動報告

【北海道支部】

北海道支部運営委員会を開催しました

北海道支部は12月1日(月)に運営委員会を開催しました(オンライン)。支部長、副支部長で決めていたアウトラインについて審議、今年度の活動計画を確定させました。

<2025年度 支部運営委員>

支部長 原一将(札幌国際大学)

副支部長 川上あき(北海道大学)／小林純(札幌国際大学)

運営委員 新谷弥(札幌国際大学)／石田麻英子(札幌国際大学)／田崎悦子(きやりあ工房)

監事 後藤真澄(プロ・アシスト)

事務局 小林純(札幌国際大学)

北海道支部研究会の日程などが決まりました

北海道支部では3月と6月に支部研究会を開催いたします。

<3月8日(日)>

2025年度のテーマは「現状を知る」です。2021年に札幌で開催された第22回大会は完全オンライン、「アフターコロナでインターンシップはどう変わるか？」が議論されました。しかしその答えは出ていません。2025

年度は原点回帰、高校・大学・企業の現場報告を中心とします。第一部は「学生に作業をさせないインターンシップモデルの成功要因(仮題)」です。北海道観光機構の補助金事業ですが、一般企業とタイアップした有償インターンシップのモデルケースを紹介します。第二部は「高校のインターンシップについて(仮題)」です。高校で実施されている今どきの事例について紹介します。会場は北海道大学情報教育館です。新規会員も増えましたので、懇親会も予定しています。現時点では対面開催を予定していますが、詳細が決まり次第、学会Webサイトでお知らせいたします。

<6月>

日程は未定ですが、研究発表を主体とし総会も兼ねます。

(北海道支部支部長 原一将・札幌国際大学)

【東日本支部】

東日本支部では、今年度より新体制での運営を開始いたしました。支部長には今永典秀(コー・イノベーション大学)、副支部長に牛山佳菜代(目白大学)、上岡史郎(目白大学短期大学部)、手嶋慎介(愛知東邦大学)が就任し、運営委員として二上武生(工学院大学)、河瀬恵子(東京経済大学)、若林悦子(一般社団法人つばめいと)、松林康博(名古屋産業大学)の体制で活動を推進してまいります。

今年度の東日本支部におけるテーマは、「未来に向けて良いインターンシップを実施するために大切なことは？」と設定いたしました。社会環境が急速に変化する中で、学生のキャリア形成に寄与するインターンシップのあり方を、模索したいと考えております。

活動計画としては、年間3回の支部研究会の開催を予定しております。今回は、2月22日(日)に目白大学にて支部研究会を実施いたします。当日は、榎本記念賞を受賞された事例を取り上げ、パネルディスカッション形式での議論を想定しております。優れた実践事例から学びを共有し、今後の教育・支援活動への示唆を得る貴重な機会とする所存です。

(東日本支部支部長 今永典秀・コー・イノベーション大学)

【関西支部】

関西支部は、2025年12月12日(金)夜に追手門学院大学 茨木総持寺キャンパスにおいて、第20回関

西支部研究会を開催しました。今回も、対面とオンラインのハイブリッドで開催したところ、対面で8人、オンラインで8人が参加されました。

最初の報告者は伊藤文男会員（追手門学院大学）、テーマは「産官学連携による就業体験の新たな試み ―高大接続に期待される効果の観点から―」です。追手門学院大学が福井県と連携し、さらに2つの大阪府立高等学校（大阪ビジネスフロンティア高等学校と生野工業高等学校）と高大接続を意識して実施された就業体験を紹介していただきました。

二つ目の報告者は井口徹郎会員（武庫川女子大学）と高橋愛満氏（武庫川女子大学）、テーマは「企業・団体と連携した社会交流型の正課必修科目『実践学習』」です。武庫川女子大学経営学部が2020年の学部設立以来取り組んでおられる「実践学習」という科目について紹介していただきました。約60の企業・団体の協力を得て、学部生全員が2箇所以上で「インターンシップ」「サービスマーケティング」「フィールドワーク」のいずれかを体験することを義務付けるという取り組みです。

交流会も開催し、有意義な意見交換ができました。

（関西支部支部長 安孫子勇一・近畿大学）

【九州支部】

2025年度支部総会

2025年8月3日（日）に2025年度九州支部総会を久留米大学福岡サテライトにおいて、対面とオンラインの併用形式で開催しました。

議題は、2024年度活動報告（第33回、第34回研究会、楨本記念賞九州支部推薦報告）、2024年度会計報告・監査報告、2025年度活動計画（案）及び2025年度予算（案）、2025-2026年度支部運営委員（案）、第27回大会の開催候補（熊本学園大学）について報告・審議され、承認されました。2025・2026年度の支部運営委員は以下のとおりです。

<2025・2026年度九州支部運営委員>

支部長 江藤智佐子（久留米大学）

顧問 吉本圭一（九州大学名誉教授・滋慶医療科学大学）

副支部長 眞鍋和博（広報担当／北九州市立大学）
古賀正博（渉外担当／九州インターンシップ推進協議会）

運営委員 井本浩之（西九州大学）／嶋田文広（熊本学園大学）／濱本伸司（（一社）フミダス）／平尾元彦（山口大学）／渡邊和明（鹿児島大学）／桑畑夏生（宮崎大学）

監事 岡本信弘（博多工業高等学校）

事務局長 桑畑夏生（宮崎大学）

事務局員 坂田美和子（九州インターンシップ推進協議会）

九州支部 第35回研究会

2025年8月3日（日）に第35回研究会を『海外インターンシップにみる学びの架け橋』をテーマに久留米大学福岡サテライトにおいて、対面とオンラインの併用形式で開催しました。

副支部長の古賀正博会員（九州インターンシップ推進協議会・専務理事）より開会挨拶と趣旨説明がなされ、松口健司氏（VERSE株式会社・代表取締役）から「東南アジアにおける海外インターンシップ『fullasia』の事例」について報告がなされました。大学時代のインターンシップ経験を活かした事業内容を越境学習の重要性やキャリア観の広がりについて紹介されました。

次に、濱本伸司会員（一般社団法人フミダス・代表理事）から「台湾の大学生と熊本をつなぐインターンシップ―熊本商工会議所との連携事例―」について、台湾大手半導体企業の進出に伴う人材需要の変化を背景に、地域企業と大学生をつなぐしくみづくりについての事例報告がなされました。

総括討論の後、閉会挨拶が眞鍋和博支部長（北九州市立大学・教授）よりなされ、海外との連携を通じて研究と実践の双方を発展させていくことへの期待が示されました。参加者は28名（対面14名、オンライン14名）でした。非会員の参加もあり、終了後も参加者相互の活発な意見交換がなされました。往還の実践の場としての海外インターンシップの可能性について議論を深める場となりました。

九州支部 第36回研究会

2025年12月7日（日）に第36回研究会を『第三段階教育から職業へのアプローチ』をテーマに熊本学園大学において、対面とオンラインの併用形式で開催しました。

開会挨拶と趣旨説明では、このテーマを扱った最新書『第三段階教育から職業へのアプローチⅠ 界をつなぐ NQF 基準をめざす日本と韓国』（花書院 <https://x.gd/tzrKV>）の内容による発表であることが江藤智佐子会員（久留米大学・教授）から紹介されました。

最初に、吉本圭一会員（滋慶医療科学大学・特任教授／九州大学名誉教授）から「界をつなぐ『NQF 基準』を目指す日本と韓国」と題する報告がなされました。学修成果と職業コンピテンシーを共通の言語でつなぐ国

家学位資格枠組（National Qualifications Framework: NQF）に焦点をあて、日本と韓国とで教育の界と職業の界をつなぐ「NQF 基準」づくりとその活用状況についての意義など全体の概要が示されました。

次に、田中光晴氏（文部科学省総合教育政策局・参事官付専門職）から「韓国における国家職務能力基準（NCS）の制度化過程と学習モジュール」と題し、韓国の National Competency Standards: NCS の政策的な取組みとその制度展開のプロセスが説明されました。採用での具体的な活用事例など、最新情報を取り入れながら韓国 NCS について紹介されました。

これらの制度の教育現場での活用状況について江藤智佐子会員から「韓国 NCS 学習モジュールと日本の『NQF 基準』」と題し、日本と韓国の進展状況と日本への示唆が報告されました。

総括討論では、「学修者の幸せ本位」に向かう界をつなぐ『日本版 NQF』の実装について、日本の事例を取り上げながら議論が展開されました。参加者は 26 名（対面 15 名、オンライン 11 名）、非会員 10 名の参加もあり、参加者相互の交流の場が広がる研究会となりました。

次回（第 37 回）研究会は、2026 年 4 月 18 日（土）にスタートアップ支援を予定しております。

（九州支部支部長 江藤智佐子・久留米大学）

【振込先】

・郵便口座 02750-1-108419

口座名義（「加入者名」の欄）：

日本インターンシップ学会

・ゆうちょ銀行

店番 : 279 (当座)

口座番号: 108419

口座名義: 日本インターンシップ学会

*恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください。

事務局からのお知らせ

2025 年度会費納入のお願い

2025 年度の会費納入につきまして、会員の皆さまに案内を送付させていただいております。オンラインでの決済も可能となりましたので、ぜひご活用ください（学会ホームページの「会員情報照会・更新にログイン後「オンラインクレジット決済システム」または「年会費のクレジット決済」へお進みください）。『研究年報』投稿、大会発表は 2025 年度の会費を納入済みであることが条件となりますので、入金がまだの方は 速やかに納入いただきますようお願いいたします。

なお、2024 年度（2024 年 7 月から 2025 年 6 月）分の未納会費がある方におかれまして、その納入もお願いいたします。

（事務局長 伊藤文男・追手門学院大学）

追悼 田中宣秀先生の思い出

日本インターンシップ学会の創設期の指揮をとられた田中宣秀先生が2024年1月15日81歳でご逝去されました。遅くなりましたが、この場で追悼の辞を述べさせていただきます。

田中宣秀先生は、1999年3月の学会創設時から常任理事のお一人として参画され、その後2001年から2008年度まで副会長を務められ、2016年度まで常任理事や理事を歴任されました。

本務の経歴としては日本郵船勤務の後、日本経営者団体連盟教育研修部長を務められ、日本におけるインターンシップの政策的導入の検討段階では、当時の文部省、労働省の各種委員会の産業界側委員をされていました。その委員会のネットワークから本学会の創設役員メンバーが集まり、田中先生は設立趣意書の作成にも関わっています。日経連の退職後は、名古屋大学教育学部教授に着任され、2004年の第5回大会を名古屋大学で開催されています。名古屋大学退職後は、名古屋大学での就職支援アドバイザーとして「海外におけるインターンシップについて」の講演をされたり、電気通信大学で特任講師を続けておられたりしました。また、これらの情報については、日本インターンシップ学会(2011)

『日本インターンシップ学会～10年の記録～』の中にあるのですが、その周年記録を陣頭指揮し編集されたのも、田中先生でした。

田中先生とのご縁は、就職協定破りの青田買いの横行への対応としての新しい就職システムが模索されていた時期にさかのぼります。当時、日本労働研究機構での研究プロジェクトで大学卒業生調査や、米国インターンシップ調査を企画しており、1991年に日経連におられた田中先生とお話する機会を得ました。その後も内外のキャリア教育などの情報提供・意見交換をするような関係になり、産業界からの会員としてとりわけ勉強熱心でした。大会での発表も多くされ、大会の部会に参加すれば必ず研究に対するコメントをされていました。ご逝去直前の、2023年12月にも九州支部オンライン研究会の申込みをいただいていたのですが、1月の研究会の場で、名誉会員推挙をお伝えしようとしていたのですが、先生がご欠席だったため、お伝えることができずにいたところ、ご逝去の報に接することになりました。大変残念でなりません。

本学会に長らく功労のあった名誉会員の田中先生のご逝去を悼み、ご冥福をお祈りいたします。

(前会長 吉本圭一・滋慶医療科学大学)

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER 2025 No.1

発行日:2025(令和7)年12月26日

発行:日本インターンシップ学会 会長 亀野淳

編集:日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 見目喜重

事務局:日本インターンシップ学会事務局 事務局長 伊藤文男

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-39-2 大住ビル 401

(株)ガリレオ学会業務情報化センター内

日本インターンシップ学会 会員管理事務局

TEL:03-5981-9824 FAX:03-5981-9852

e-mail: g035jsi-support@ml.gakkai.ne.jp